



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島県立聴覚支援学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	聴覚支援学校中学部1年～3年 18名 高等部1年～3年 30名 合計 48名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 (総合的な学習の時間) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックへ関心を高める。 ○スポーツへの多様な関わり方があることを理解する。
5 取組内容	事前学習（調べ学習）  講演 

	<p>事後学習（応援メッセージ作成）</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックにおいて、バスケットボール競技への関心が高まり、5人制女子バスケットボール競技や男子車椅子バスケットボール競技での銀メダル獲得の喜びを共感することができた。</p> <p>オリンピック・パラリンピックに直接携わる人を招いて、大会に臨むまでの努力の積み重ねや心境を聞くことにより、華やかな表舞台とは別の視点で、主役である選手が輝くように陰ながら手助けする役割の人々もいるということに気が付くことができた。本事業により生徒は、日常生活の中で、一つの目標を達成するためには、いろいろな役割を担う存在が必要であることを認識することができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>聴覚障がいを持つ生徒達が、オリンピック・パラリンピックへの関心を高め、オリンピック・パラリンピックを楽しむためにはどうすればよいかを考え、パラリンピックの車椅子バスケットボール競技へ審判として参加予定だった特別支援学校勤務の教員に講演を依頼した。生徒達にとって身近な存在である特別支援学校の教員が選手ではなく審判員という形でパラリンピックに参加することは、オリンピック・パラリンピックを新たな視点で考えるきっかけになると考えた。</p> <p>講演前の事前学習やオリンピック・パラリンピック後の事後学習を通して、選手を応援することはもちろん、オリンピック・パラリンピックに参加する方法や楽しむ方法が多岐にわたることを生徒が気付くことができるよう事業を進めた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>オリンピック・パラリンピック選手を視点に考えてしまうと障がいのある生徒達へフィードバックする際、どこか遠い世界の出来事に感じてしまうことが予想される。障がいのある生徒の視点で、共感できることや自分たちにもできることを考え、身近な生活に反映できるよう事業を計画することが必要と考える。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>スポーツへの関わり方は、「する」「見る」だけでなく、「支える」「知る」などの方法があることを継続的に学ばせていきたい。また、可能であれば生徒のスポーツへの興味関心を高めるために、オリンピックやパラリンピアンとの交流を行っていきたい。</p>